資　料　編

発砲する生徒：脅威評価の考え方

司法長官からの書簡 i
連邦調査局（FBI）長官からの書簡 ii

第１章　前書き 1
全米暴力分析センターの研究とリーズバーグでのシンポジウム 1
校内発砲事件と脅迫の評価 2
校内発砲事件についての誤った報道 4

第２章　脅威を評価する 5
脅威とは何か 6
動機 6
道しるべ 7
脅威の形態 7
脅威査定に当たっての諸要素 8
リスクのレベル 9

第３章　四側面型評価手順　(Four-Pronged Assessment Approach) 11
四側面型評価モデル 11
生徒の個性：行動の特長と性向 12
家族の力学 13
学校の力学 13
社会の力学 14

第４章　着眼すべき注意信号（Findings） 15
第１側面：個人の性向と行動 16
第２側面：家庭の力学 21
第３側面：学校の力学 22
第４側面：社会の力学 23

第５章　関与（Intervention）過程 25
学校における脅迫管理 25
法執行部門の役割 27
脅迫の事例 28
事例#1：低レベルの脅迫 28
事例#2：中レベルの脅迫 28
事例#3：高レベルの脅迫 29

第６章　勧告と結論 31

付属資料
付属資料Ａ　方法論とシンポジウムにおける事件見直しの利用法 34
付属資料Ｂ　参考文献紹介　（省略）
付属資料Ｃ　提言 37
付属資料Ｄ　謝辞（省略）

司法長官からの書簡

少年暴力はわれわれがこの国で当面している最大の犯罪問題の一つである。われわれはこの問題に焦点を当て、州政府及び地方当局と協力して、機能する予防及び施行プログラムの策定につとめてきた。暴力犯罪を犯した少年はその責任を問われるべきであり、処罰は厳格、公正、且つその犯罪に適したものでなければならない。

コミュニティ、学校、政府及び他の主要関係者が協力して犯罪の根本に対処するなら、われわれは子供たちに対してアメリカをより安全にすることができることを示してきた。国内の各コミュニティは、青少年を混乱から切り離すための予防・関与戦略が有効であることを証明している。従ってわれわれは、支援を必要とする青少年を識別し、彼らが必要とする支援を与える事が極めて重要なのだ。

われわれは、学校暴力の脅威の存在を暗示する行動的・環境的な重要指標の探索を続けなければならない。だからこそ、この「発砲する生徒：脅威の評価展望」報告が重要である所以なのである。調査はなお継続されねばならないが、この報告は重要な基盤として役立つものである。この報告は脅威の評価と関与のためのモデル的手順を示し、併せて脅威を評価するに際して警報信号と見なすべき重要な指標に関する一章が添えられている。

この脅威評価モデルを慎重に使用するならば（子供たちに不当なラベルや烙印を押す危険が高いので、慎重であらねばならない）、われわれは二つの側面で戦いを進め、勝利を得ることができよう。

その一つは、暴力への性向を示す子供たちを、彼らが自らを（そして他人を）傷つける前に永久に救うことができるようになることだ。

もう一つは、罪のない子供たちが無意味な犠牲者になる前に、彼らを保護することができるようになることだ。

ジャネット・レノ

連邦調査局長官からの書簡

「学校暴力は受け入れるわけには行かない。絶対に、永久に。」と申しあげるとき、私は国内の全ての両親と教育者に申しあげている事をよく承知している。だからこそ各コミュニティにとっては、子供たちを守り、子供たちが成人するために必要な勉強や善悪を区別するための勉強、そしてよい市民になるための勉強ができる安全な場所を子供たちのために確保してあげることが至上命題なのである。

従って私は、この実践的な報告書「発砲する生徒：脅威の評価展望」の作成に参画した、各方面からの専門家の前例を見ない努力を深く評価申しあげる次第である。この報告書の目標は「予防」である。すなわち、脅威評価を通じて暴力の前兆を識別すること、次ぎに暴力が爆発する前に暴力的行為を阻止するための関与を開始することである。

私はこの調査に参画し、暴力予防のためにFBI職員に支持・支援を提供頂いた全ての方々に謝意を表したい。われわれは、学校が悲劇的な犯罪現場になってからではなく、犯罪が発生していない今から全米の学校とともに働きたいと思っている。

私は、とりわけ、安全な学習の場所を作るために配慮し努力しておられる教育者と両親の方々にこの報告書を捧げたい。あなた方のご苦労に感謝申しあげる。われわれの最も貴重な資源--われわれの子供たち--の保護に責任を担っておられる方々に感謝申しあげる。

ルイス・J・フリー